会　議　議　事　録

会　議　名	平成 28 年度 第 2 回　教育課程編成委員会		専門学校　東京工科自動車大学校 専門学校　東京工科自動車大学校世田谷校 専門学校　東京工科自動車大学校品川校
開催日時	平成 28 年 10 月 7 日（金）　１５：００～１７：００		
会　　場	（全体会）東京テクニカルカレッジ１１Ｆ　1104 教場 （1 級教育課程分科会）東京テクニカルカレッジ１１Ｆ　1101 教場 （2 級教育課程分科会）東京テクニカルカレッジ１１Ｆ　1104 教場		
参　加　者	委員 出席者	15 名	（出席者） ・佐藤　康夫（委員長　全体会議長） ◇1 級教育課程分科会 ・松村　道隆（議長） ・大石　安孝　・甲斐　俊和　・谷川　潮　・宮谷　真樹 ・山口　泰之　・井上　真一　・園田　幸祐 ◇2 級教育課程分科会 ・小林　完（議長）　・竹尾和也 ・沼田　勇　・小野　宗憲　・田村　智　・澁谷　健 （欠席者） ・遠藤　新一　・斎藤　昭男　・佐々木　洋文　・油井　文江
	事務局	1 人	・開田　実
	全体会		
配付資料	◇全体会配布資料 A:会議次第・会議進行資料（PP） B:平成 28 年度第 1 回教育課程編成委員会　議事録（前回会議議事録） C:学校評価の実施方法（JAMCA　アンケート参照資料）		
全体会 会　議　録	出席者・配布資料の確認（事務局） **１．開会挨拶（全体会議長）** 議長より平成 28 年度の本会議開催に向けて以下の報告と感謝の言葉が述べられた。。 ・平成 28 年度就職内定状況 東京工科グループ全体で 90%（9 月末現在）の順調な推移である。 ・平成 28 年度企業連携教育報告 資料の通り、多くの在校生向け企業連携実習、教員向けの企業連携講習等が行われた。		

	２．アンケート依頼事項（2 級分科会議長） ・JAMCA（全国自動車大学校・整備専門学校協会）が任されている文科省委託事業の取組として、学校評価における「第三者評価」の構成と評価項目を行っている。それに伴うアンケート記載を各学外委員の方へお願いした。
審議事項	**３．議事** **①前回議事録（H28 年第 1 回教育課程編成委員会）の確認** 事務局より以下の報告がなされた。 1)本会議より中野 1 級自動車整備科科長並びに世田谷 1 級自動車エンジニア科科長の 2 名を新たに本委員会メンバーに加える事となる。 ・前回会議には以下の内容が検討され、本会議にて次年度に向けた課題や改善項目を報告を行う事とする 2)1 級分科会　中野校国家試験要因分析報告と質疑 3)2 級分科会　企業が「卒業生に求める能力等」を養う授業の一例報告（プロジェクトセミナー）とその評価方法（社会人基礎力 12 項目 5 段階評価）について ⇒　全員一致で承認 **②任期満了による平成 29 年度委員選出について** 議長より 28 年度任期満了（29 年 3 月）に伴い、以下の２つの理由により 29 年度以降の本委員の選出を学校より個別に依頼し、委員の推薦・承諾を頂く事としたい提案がなされた。 1)会則による二年任期更新となる事。 2)本年度までの委員構成は、各校の学校関係者評価委員との重複が多く、企業様へ負担が増えてしまう為、重複を避けた委員構成とする。 ⇒全員一致で承認 **③分科会委員体制と本日の議題・進行について** ⇒全員一致で承認
	―――――――――　１級教育課程分科会　―――――――――
１級分科会 配布資料	◇全体会配布資料 ・1 級整備士の知識・技能についてのアンケート結果
会議録	**１．資格合格率向上への取り組み** 世田谷校　井上科長、中野校　園田科長から口頭にて報告があった・ →中野校は、インターンシップ後登録試験過去問題の模擬試験、およびそのフォローを実施。全員が合格点を取ったことを確認。また、４期以降に使用する練習問題の作成も計画通り進行している。世田谷校との共通試験でも夏休みまでの学習の成果が表れている。 世田谷校は、同様にインターンシップ期間中成績低迷者を呼び出し、面接指導を実

	施。学習課題を与え実力向上を促した。共通模擬試験でも昨年より若干良い傾向が出ている。４期４０点、５期４５点（５０点満点）を目標に指導し、全員１００%合格を目指す。練習問題も随時見直しを進めている。 **２．質疑** ・１級合格には文章読解力が必要では。社会でも必要とされている。 →読書習慣が無い学生が多いため、教科書の読み込みを徹底させている。 ・１００%合格という響きが良いので是非頑張ってほしい。 →良い結果を残せるよう全力で取り組みたい。 **３．卒業者の技術レベルについて** 松村リーダーより、資料を用いて企業に対する「1 級整備士の知識・技能についてのアンケート結果」の報告が行われた。アンケート結果については、本校学生のみを対象にしたものではなく、入社した１級卒業生に対する全般的なものであることが説明された。 入社時の知識技能についてはほぼ満足している回答が多い。理由については人間力・やる気、電子制御装置の知識などが挙げられた。 やや不満とした理由は、即戦力、故障診断力などが挙げられている。 今後学校で習得すべき知識技能としては、電気・電子回路の知識、接客能力が挙げられている。 その他自由記述の中には 1 級の必要性に言及した厳しい意見も入っており活発な意見交換が行われた。 **４．質疑** ・1 級の学生は理由をわかって作業をしている。お客様に対する説明も整理して行うことができる。スキャンツールは入社後でも学べるため、習熟は求めていない。車好きが少ないことは承知している。 ・実務経験を積まないとステップアップできないため、即戦力はすぐには期待できないが 1 級学生は引き出しの多さが役に立っている。修理所が無くても作業できる力を持っている。 ・インターンシップでコミュニケーション力を学んでいることが良い。 興味を持たせるためにはとにかく車など実物に触ってもらうのが一番だと思う。 →今年度 JAMCA 会員校として初めて 1 級の入学者が減少した。教科書の内容も古くアンケートで厳しい意見が出るのも当然と考えている。 ・人間性など内面的には差がある。2 級課程の学生と同じ作業をやらせている企業にも責任がある。 手を動かす定型作業をしっかりできるようにすればもっと評価が上がると思う。

	→3，4 年では授業ではテスタを扱う授業が多くなり、手足を動かす実作業の実習は少ない。インターンシップ前には一人一人が定期点検を確実に実施できるよう授業に取り入れている。 ・会社ではやる気がある人材を求めている。 即戦力に達していないという意見があることは、努力する姿勢が見えないのではないか。人間力、やる気は企業に入っても必要であることを学校でも言い続けてほしい。 ⇒共通してやる気が重要であるということがいえると感じる。やる気を喚起するためには、授業の中でもなぜその知識・技術が必要かをしっかり説明し、学生が納得して学ぶことが重要だと思う。授業内容を変えるとか追加するということより、教員の指導力、指導方法の向上を図り企業様に満足していただける人材の輩出に学校全体で取り組むこととする。 分科会議長より以上の発言があり、散会となる。
	2 級教育課程分科会
2 級分科会 配布資料	◇全体会配布資料資料 ・プロジェクトセミナー科目一覧 ・プロジェクトセミナー評価集計一覧(第 2 期分)
会議録	**◇議事** 小林リーダーより資料を用いてプロジェクトセミナーの位置付けについて、また今年度より取り入れた「社会人基礎力１２項目」を基軸とした教科評価方法について概要の説明を行ったのち、２学期に実施した評価結果について報告を行い、内容について審議を行なった。 **１．受講前学生評価について** 項目別の評価の出かたは全体に「前に踏み出す力」・「考え抜く力」が低めで「チームワークで働く力」が高めの傾向だが、校科別に見ると項目内の点数の出かたにバラツキがある。これは学生個々の自身に対する甘さ・厳しさの表れと取れる **質疑** 点数の付け方についてどの様に説明を行なったのか →学生を一同に集め、一人の教員が一項目ずつ説明し、記入させた **２．受講後学生評価および教員評価について** 学生評価については、全体として事前の評価で低めだった「前に踏み出す力」・「考え抜く力」の伸び幅が大きい結果となった。ただし校科別のバラツキは受講前同様に見受けられる。これは前述の学生の個性によるものと、受講後という点では選択したテーマの特性を加味する必要がある また教員評価については、全体として学生の評価点よりも高い値となっている。ただし校科別に見ると学生評価を受けて大きく低めにカウンターをかけている様子も見られる **質疑・意見** ・学生への教員評価のフィードバックは行なわれているのか？

	→書式に基づき学生と対面で行なっている ・ここまで詳細な評価だと教員にかかる負担は相当量になるのではないか？ （大学は論文の提出がなされるか否かで評価を出している） ・教員の個性・目線の違いによっても評価が左右するのでは？ →教員も暗中模索の状態で負担感・バラツキは否めないが、生みの苦しみとして真摯に取り組んでいる ・自分の評価と他人の評価とのギャップを知る事が大切 ・こうすればランクアップできるといったヒントを与えるとよい ・企業においても能力開発は目標設定、達成度の付け方が難しい ・甘いことは言えるが、厳しいことが言えない管理者が居る ・講師を招いての管理者教育を実施している ・拠点を巡回し管理者を指導している ⇒セミナー授業は正規科目でありながら、従来教員の情意による評価を行なってきたため、この授業によってどの様な力がなぜ付いたのかの理由付けが出来ずにいた。その指標として今回１２項目評価を取り入れた。これにより教員・学生共に気付きを得る事が期待できる。これを成功させるためには教員のスキルアップが第一であり、今回頂戴したご意見をもとに今後学内で対応について検討することとする。またテーマ性、展開方法に起因する差異は次年度の検討課題としたい。 分科会議長より以上の発言があり散会となる。
会議風景	 （全体会場より別室に移動して実施。２級分科会は全体会場にて実施のため割愛）